

「第3回アジア美術館基本計画策定に関する有識者会議」議事概要

■ 拡充先における施設整備について

(アジア美術館の機能分担、拡充先における施設整備について)

- ・拡充先の「展示機能」はコレクション展だけでなく、特定のテーマに基づいたり外部との協力によって実施する企画展や特別展などの展覧会も開催するだろうから、それがわかるような表現にした方がよい。
- ・拡充先の「調査研究」については、誰に対しての機能か、そこでどんな活動をしてほしいかを考えることが重要で、展覧会に関連した資料を備えるなど、それを踏まえて諸室を検討したほうがよい。
- ・「展示」について、拡充先の立地を踏まえると、アフターMICE、レセプション会場や夜間の利用等、ユニークベニューとしての活用が想定され、そういった利用にも対応できる作品保護やセキュリティの視点等も想定しておく必要があると考える。
- ・地下が安全なことは大前提だが、地上に一時保管庫を配置することで、二重三重のバックアップ機能として、避難場所的に備えておくことは必要かもしれない。
- ・拡充先は街中に位置し、美術館を訪れた後に公園や飲食店で休憩して、再び館内に戻るといった使い方が想定される。そういった出入りのしやすさや運営を考えることが大事と考える。
- ・設計をする段階ではアートと緑を軸にした都市デザインをイメージしながら、メインエントランスの配置を考えたりするので、敷地の周辺を分析した資料を充実させることが大事だと思う。

(拡充先の利用計画)

- ・公園や周辺施設との関係を踏まえ、エントランスや搬入口の整理を丁寧に検討すべき。特に、搬入口は公園という開かれた場所にバックヤードを設けるので十分な検討が必要。
- ・現状での人の流れや歩行者数に基づき動線を考えるのが最適とは限らず、カテゴリー別（市民や観光客等）や時間帯別の人流、夜間の人の滞留場所等を把握した上で、来館者とその他の歩行者との交錯や、夜間のセキュリティ等を考慮し、新たな動線を戦略的に検討すべき。
- ・何気なく美術館に立ち寄った人が展示室外でもアートを感じ、引き込まれるようなデザインにすると良い空間ができるかもしれない。
- ・公園との連携・一体化の観点から、外光が入る空間や開かれた空間を設けることは実現してほしいが、セキュリティとの両立の課題もあるため、それを考慮した計画としてほしい。
- ・一時保管庫のような施設も含め、地下に全ての機能を収めることは難しく、半地下や地上に一部の建物が出てくる場合、公園景観へのなじませ方や緑化の取扱い等を検討する必要がある。意匠性が高く、アートを感じる施設、空間にするための設計の条件をよく整理すると、国内外の建築家から面白いプランが出てくるだろう。
- ・周辺が賑わいの場所であるということを踏まえて、美術館の開館時間を考えていくべき。展示室と展示室外の使い方を工夫して、展示室内外で開館時間を分けることも考えられ、事前に考えた上で設計の条件を決めていくと良いと思う。
- ・天神全体の都市の特性として地下街があり便利であるため、そことの連携も大事。地上だけでなく地下からも入りやすい計画とするのが肝要だと思う。周辺との連携は、とても大切だと思う。

■ 施設拡充に向けた事業手法の考え方について

- ・美術館の基幹機能については、今後も福岡市が中心的に担っていく必要があると思う。賑わい創出やサービス機能については、美術館や行政側では難しい面もあるため、民間の力を借りた方がよい。
- ・建物そのものを見に来る人もいると思うので、意匠性やアートを感じられる空間創出を重視した整備手法であるべきだと思う。
- ・設計段階において、どこまでが決め事でどこからは自由な提案が可能かを明確にしておくことはとても大事だと思う。
- ・建設を市でやる場合でも、運営事業者が意見を言える適切なタイミングを確保すると良い。
- ・ウェブサイトやボランティア等の運営面の細かな役割分担にも留意していくべき。ソフト面の検討が後回しになりがちなので、他事例の調査をする際に一緒に含めて検討していくのが良いと思う。
- ・より良い事業手法になるよう、他事例から学ぶ必要があり、事例調査、収集のプロセスは非常に大事。